

## 福岡県における沿岸漁業協同組合の活魚出荷の現状

西川 仁  
(企画管理部)

Present condition of live fish distribution at coastal fishery  
cooperatives in Fukuoka Prefecture

Hitoshi NISHIKAWA  
(Research Planning and Control Department)

沿岸漁業者は、長期にわたる魚価の低迷のなかで、漁獲物の高価格対策の一つの手段として活魚の出荷を行っている。しかし、活魚の消費は全国的な広がりを見せているものの、このところ活魚市場は成熟し、活魚需要は伸び悩んでおり、活魚出荷対策の再編強化をいかに図っていくかは今日の・現実的な課題となっている。

活魚の流通や消費動向などの調査研究は比較的多く行われ<sup>1-7)</sup>、その実態や特性が明らかになってきているが、生産者団体である漁協の活魚出荷についての実態調査は少ない。

そこで、活魚流通の主流は現在なお養殖魚であるが、天然魚を主体とする本県漁協の活魚出荷の現状を整理し、今後の方向について若干の考察を試みた。

### 資料および方法

流通業者の活魚取扱い状況については、福岡中央卸売市場や福岡市内の大手活魚流通業者からの聞き取りを行い、「福岡市中央卸売市場年報」等を整理した。漁業協同組合の活魚出荷状況については、県内沿海全85漁協（筑前海区42、豊前海区17、有明海区26）を対象に、1990年の活魚出荷状況についてアンケート調査を行った。

回答があったのは72漁協（筑前海区36、豊前海区13、有明海区23）からで、約85%の回答率であった。残りの15%は未回答であったが、その理由として筑前海区では「活魚出荷は漁協事業としては行っておらず、漁協員の個人出荷であるため把握していない。」との回答が多く、豊前海区、有明海区については不明であるが、活魚出荷はそれほど行われていないと推測される。本報告での活魚とは「出荷時に生きているもの（＝泳ぎ）」とし、「活メ」等は除外した。貝類も対象外とした。

なお、活魚出荷が盛な鐘崎漁協、玄界島漁協、姪島漁協、小呂島漁協、西浦漁協、伊崎漁協、姪浜漁協、浜崎今津漁協、宇島漁協については補足的に資料収集や聞き取り調査を実施した。

### 結 果

#### (1) 流通業者の活魚取扱い状況

'82年に阿部らが行った調査<sup>2)</sup>結果によれば、福岡中央卸売市場は福岡市内活魚流通量の約60%を取扱うといわれているが、この市場における'75年から'90年までの活魚の取扱量および金額を表1に示した。量、金額ともに経年的に伸びてきており、特に'86年から'89年にかけては伸び

表 1 福岡市中央卸売市場における活魚取扱数量、金額の推移

年	数量(トン)	指数	金額(千円)	指数
1975	123	100	202,651	100
76	185	151	363,041	179
77	224	182	466,121	230
78	225	183	519,584	256
79	282	229	657,245	324
80	493	401	1,014,089	500
81	607	494	1,291,619	637
82	691	562	1,364,878	674
83	922	750	1,797,690	887
84	895	727	1,744,212	861
85	854	694	1,599,180	789
86	1,157	941	2,053,854	1013
87	4,883	3970	3,550,000	1752
88	8,549	6950	9,091,000	4486
89	13,436	10924	15,051,885	7427
90	12,714	10337	13,986,334	6902

資料：1986年まで「福岡市中央卸売市場年報」  
1987年以降福岡市中央卸売市場業務係資料

が著しい。'89年をピークに'90年には量・金額ともに下回った。

次に市場外流通業者であるA社の取扱量、金額、単価を表2に示した。養殖魚、天然魚に大別すると養殖魚が量、金額でも85%前後を占めており、現在なお活魚流通の主流は養殖魚であることがわかる。養殖魚についてみるとブリ、マダイ、ヒラメの3種取扱高が全体の70~80%程度を占める。取扱魚種としてはこのほかにもトラフグ、マアジ、ヒラマサ、ハタ類、スズキ、イシダイなどがあり多様である。天然魚の取扱魚種はヒラメ、イシダイ、イシガキダイ、イサキ、アナゴ、ケンサキイカ、イセエビ、オコゼ、ウマズラハギなど多種にわたっている。

(2) 沿岸漁協の活魚出荷の状況

1) 出荷状況

活魚出荷を行っている漁協の位置を図1に示した。県全体で26漁協(筑前海区20、豊前海区3、有明海区3)で全体の31%である。

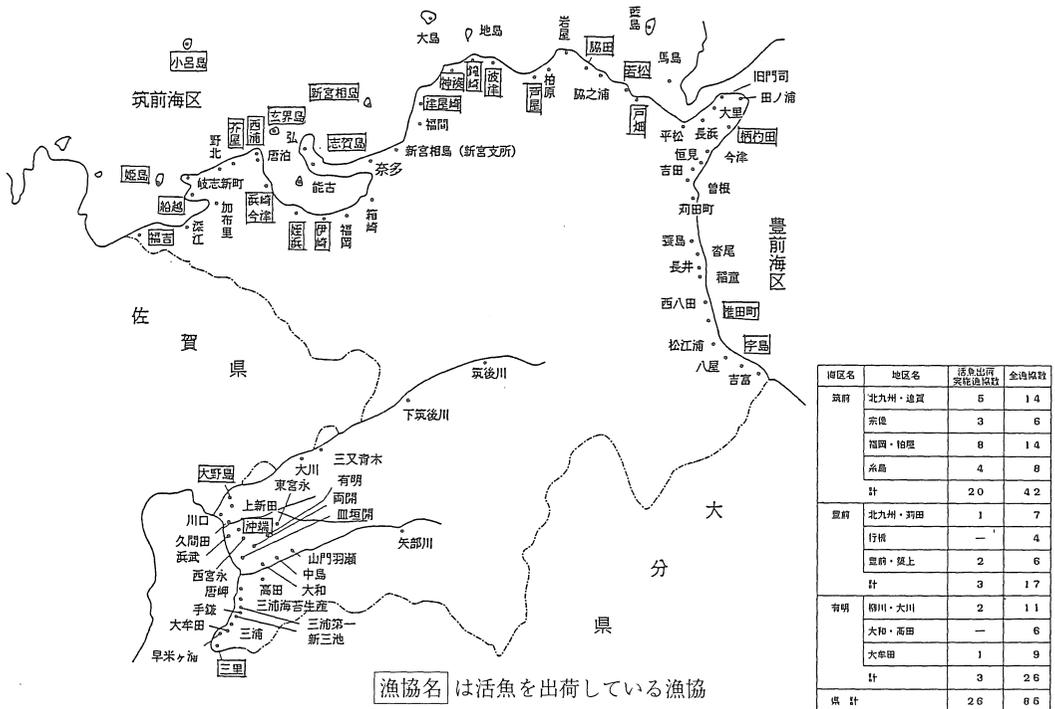


図 1 活魚出荷漁協

福岡県における沿岸漁業協同組合の活魚出荷の現状

表2 A社における魚種別取扱量、金額及び単価の推移

魚種	区分	年 1987年			'88年			'89年			
		数量(kg)	金額(千円)	単価(kg/円)	数量(kg)	金額(千円)	単価(kg/円)	数量(kg)	金額(千円)	単価(kg/円)	
1	ブリ	養殖	710,878	633,843	892	772,442	745,032	965	679,597	741,450	1,091
2	マダイ	養殖	254,096	457,162	1,799	362,885	634,407	1,748	439,073	792,949	1,806
3	トラフグ	養殖	13,582	60,614	4,463	20,220	124,964	6,180	20,717	144,011	6,951
4	マアジ	養殖	13,854	36,106	2,606	11,877	30,996	2,610	14,407	36,206	2,513
5	ヒラマサ	養殖	12,804	23,664	1,848	1,345	2,895	2,152	679	1,249	1,839
6	シマアジ	養殖	—	—	—	221	682	3,086	4,989	15,246	3,056
7	スズキ	養殖	2,016	4,813	2,387	1,860	4,930	2,651	1,624	3,446	2,122
8	ハタ類	養殖	3,562	12,794	3,592	1,885	8,206	4,353	2,109	8,822	4,183
9	カンパチ	養殖	—	—	—	—	—	—	404	670	1,658
10	ヒラメ	養殖, 天然	101,992	391,559	3,839	100,300	403,913	4,027	93,998	345,796	3,679
11	イシダイ・イシガキダイ	養殖, 天然	21,514	73,960	3,438	22,709	77,387	3,408	26,176	83,666	3,196
12	イサキ	養殖, 天然	—	—	—	—	—	—	1,184	2,797	2,362
13	アナゴ類	天然	163,116	151,481	929	158,494	152,658	963	178,734	178,791	1,000
14	ウマズラハギ	天然	—	—	—	—	—	—	3,174	3,710	1,169
15	オコゼ	天然	968	4,852	5,012	3,881	19,642	5,061	4,324	23,906	5,529
16	イセエビ	天然	1,028	8,313	8,087	668	5,935	8,885	267	2,159	8,086
17	ケンサキイカ	天然	20,283	57,806	2,850	22,935	55,653	2,427	16,089	48,101	2,990
18	ヤリイカ	天然				—	—	—	5,387	12,404	2,303
19	タコ類	天然	—	—	—	—	—	—	572	814	1,423
20	アワビ	天然	—	—	—	—	—	—	163	1,092	6,699
21	サザエ	天然	—	—	—	—	—	—	667	1,245	1,867
計			1,319,693	1,916,967		1,481,722	2,267,300		1,494,334	2,448,530	

魚種	区分	年 '90年			'91年			
		数量(kg)	金額(千円)	単価(kg/円)	数量(kg)	金額(千円)	単価(kg/円)	
1	ブリ	養殖	891,043	796,594	894	788,443	814,695	1,033
2	マダイ	養殖	437,260	802,360	1,835	452,689	791,739	1,749
3	トラフグ	養殖	30,637	186,085	6,074	24,311	138,887	5,713
4	マアジ	養殖	12,031	31,872	2,649	76,942	55,549	722
5	ヒラマサ	養殖	16,782	29,793	1,775	64,634	106,955	1,655
6	シマアジ	養殖	1,395	4,030	2,889	4,043	12,303	3,043
7	スズキ	養殖	2,298	4,681	2,037	2,182	4,438	2,034
8	ハタ類	養殖	1,520	6,306	4,149	3,084	13,064	4,236
9	カンパチ	養殖	366	586	1,601	2,656	3,774	1,421
10	ヒラメ	養殖, 天然	88,092	358,182	4,066	91,555	331,041	3,616
11	イシダイ・イシガキダイ	養殖, 天然	27,403	87,110	3,179	23,146	74,884	3,235
12	イサキ	養殖, 天然	1,063	2,532	2,382	61	151	2,475
13	アナゴ類	天然	150,364	169,581	1,128	145,517	161,810	1,112
14	ウマズラハギ	天然	5,368	6,262	1,167	7,152	8,445	1,181
15	オコゼ	天然	4,215	24,647	5,847	4,114	22,691	5,516
16	イセエビ	天然	926	7,577	8,183	880	7,178	8,157
17	ケンサキイカ	天然	12,615	41,173	3,264	16,243	57,927	3,566
18	ヤリイカ	天然	3,202	10,327	3,225	1,649	2,432	1,475
19	タコ類	天然	1,097	1,818	1,657	1,219	1,894	1,554
20	アワビ	天然	283	2,316	8,184	383	2,938	7,671
21	サザエ	天然	3,750	6,494	1,732	1,579	3,021	1,913
計			1,691,710	2,580,326		1,712,482	2,615,816	

表3 魚種別出荷量, 金額 (1990年)

魚種名	筑前海区		豊前海区		有明海区		県計		漁法		
	数量 (kg)	金額 (円)	数量 (kg)	金額 (円)	数量 (kg)	金額 (円)	数量 (kg)	金額 (円)	1	2	3
ヒラマサ	159,701	139,738,375					159,701	139,738,375	しいら漬		
マダイ	115,604	220,026,452					115,604	220,026,452	釣り	養殖	ごち網
フグ類(トラフグが主)	105,575	1,465,913,998					105,575	1,465,913,998	はえ縄		
ブリ	96,081	43,236,450					96,081	43,236,450	釣り	さし網	
ヒラメ	58,658	30,282,184					58,658	230,282,184	さし網	釣り	定置網
イサキ	50,580	46,027,800					50,580	46,027,800	釣り	さし網	
魚ボラ類			46,145	27,687,000			46,145	27,687,000	ます網		
カレイ類	2,500	3,000,000	19,564	13,694,800			22,064	16,694,800	底びき網	さし網	
ウマズラハギ	12,065	8,219,700					12,065	8,219,700	すくい網		
ハタ類	10,550	19,375,000					10,550	19,375,000	ごち網	さし網	
アマダイ	7,070	15,554,000					7,070	15,554,000	はえ縄		
スズキ			5,955	7,146,000			5,955	7,146,000	ます網		
コチ類	4,440	9,400,000					4,440	9,400,000	さし網		
ウナギ					3,360	4,865,280	3,360	4,865,280	はえ縄		
類オコゼ	1,970	9,900,000					1,970	9,900,000	さし網	底びき網	
クロダイ			1,901	570,300			1,901	570,300	ます網		
エイ類			670	134,000			670	134,000	空つり縄		
イシダイ	200	700,000					200	700,000	さし網		
カサゴ	不明	不明					不明	不明	さし網		
アジ類	不明	不明					不明	不明	さし網		
魚類計	624,994	2,211,373,959	74,235	49,232,100	3,360	4,865,280	702,589	2,265,471,339			
甲殻類											
ガザミ類	1,000	2,890,000	61,076	48,860,800			62,076	51,750,800	かご	底びき網	さし網
クルマエビ	34,044	155,987,318	8,505	38,272,500	10,000	45,000,000	52,549	239,259,818	底びき網	さし網	ます網
ウチワエビ類	130	260,000					130	260,000	さし網		
甲殻類計	35,174	159,137,318	69,581	87,133,300	10,000	45,000,000	114,755	291,270,618			
ウニ類	5,536	13,740,672					5,536	13,740,672	海士		
そイカ類	4,000	10,000,000	1,422	711,000			5,422	10,711,000	釣り	ます網	
のナマコ類	2,411	5,640,475					2,411	5,640,475	海士	潜水器	
他タコ類					不明	不明	不明	不明	げんしき網		
その他計	11,947	29,381,147	1,422	711,000			13,369	30,092,147			
計 27種	672,115	2,399,892,424	145,238	137,076,400	13,360	49,865,280	830,713	2,586,834,104			

本県の沿岸漁業者が活魚として出荷している魚種はマダイ、ブリ、ヒラメ及びトラフグを主とするフグ類等27種類にわたっており、その内訳は魚類20種、甲殻類3種、その他4種となっている。

筑前海区ではヒラマサ、マダイ、フグ類(トラフグが主)、ブリ、ヒラメ、イサキ等21種、豊前海区では、ガザミ類、ボラ、カレイ類等8種であり、有明海区ではクルマエビ、ウナギである。

魚種別出荷量、金額を表3に示した。本報告による活魚出荷量は約830トン、約26億と推定されたが、これが、'90年の本県沿岸漁船漁業漁獲量(貝類を除く)約15,000トン、約122億円に占める割合をみると、量で約6%、金額で21%となる。未回答の13漁協及び本報告では把握できなかった分も含めると、活魚出荷量が漁船漁業

漁獲量に占める割合は、実際には量では10%程度、金額では20%程度と見積られる。

同様に魚種別に、漁船漁業漁獲量に占める割合をみるとヒラメ22%、イサキ14%、マダイ13%、ボラ類12%、ガザミ類12%、フグ類(トラフグが主)8%、ブリ類(ブリ、ヒラマサ)7%が主なものである。

活魚出荷総量の内訳を魚種別にみると、ヒラマサが最も多く全体の19%、マダイ14%、フグ類(トラフグが主)13%、ブリ12%、ガザミ、ヒラメは7%、クルマエビ、イサキ6%などが主要種となっている。同様に金額ではフグ類(トラフグが主)が最も多く全体の57%を占め、次いでクルマエビ、ヒラメは9%、マダイ8%、ヒラマサ6%となっており、フグ類(トラフグが主)が

突出している。

魚種別の活魚出荷が漁船漁業漁獲量に占める割合では、傾向としてヒラメは比較的活魚化が進んでいるが、イカ類は漁獲量が多い割には活魚化は進んでいない。フグ類はサバフグなどが多く漁獲されるため数値は低いが、トラフグは運搬途中の斃死を除けば全て活魚で出荷される。

また、ヒラマサの活魚出荷については鐘崎漁協を主体にしいら漬漁業で漁獲されたもので、図2に示すように'89年、'90年は例外的にヒラマサが非常に多く漁獲され養殖種苗として出荷されたことによるもので、平年の傾向とは異なる。

出荷活魚の漁業種類は釣り、さし網、定置網、底びき網、延縄、ごち網、すくい網等で、釣り、定置網主体の'70年代後半頃に比べて多様化してきており、漁業者が活魚出荷に積極的に取り組んできた結果が現れている。

仕向地別にみた出荷量・金額の割合を図3に示した。県内、県外別に見ると量では、54.8%、45.2%、金額では37.1%、62.9%となっている。

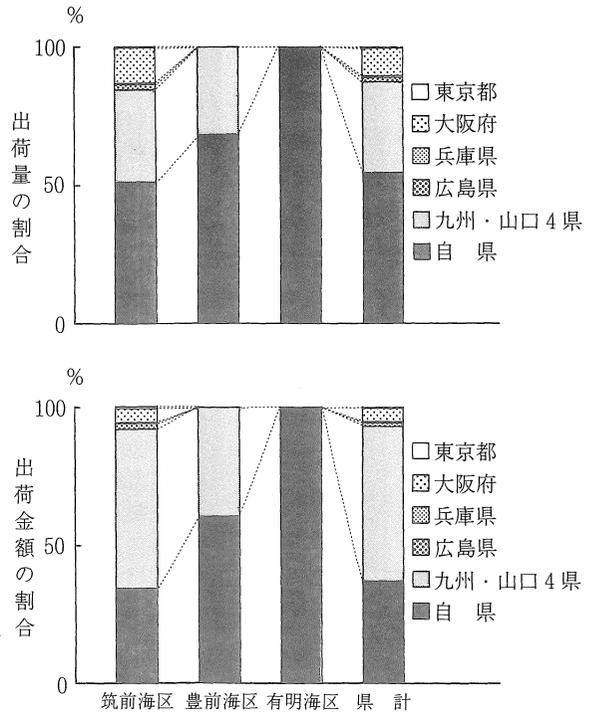


図3 仕向地別出荷量、金額の割合

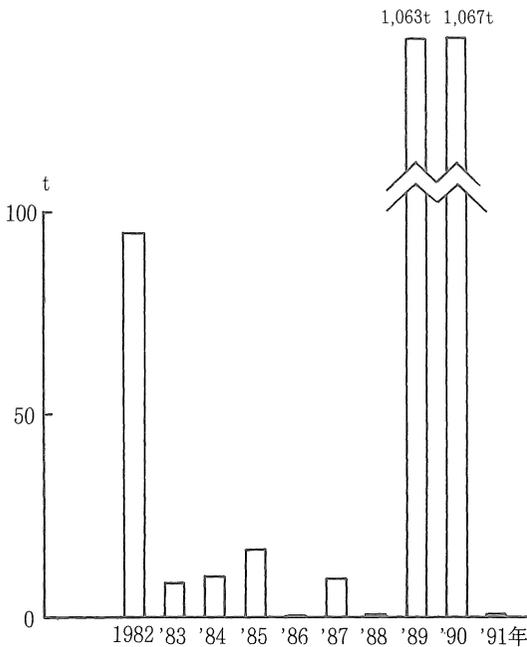


図2 鐘崎漁協“しいら漬”漁業によるヒラマサ漁獲状況

県外出荷量の内訳を見ると、山口県 23.6%、大阪府 10.7%、大分県 6.2%、佐賀県 2.3%、広島県、長崎県、兵庫県及び東京都は1%以下である。出荷金額の内訳を見ると、山口県 51.8%、大阪府 4.8%、大分県 3.1%、広島県、佐賀県、長崎県、兵庫県及び東京都は1%以下となっており、九州山口圏内への出荷量は87.5%、出荷金額では93.5%を占め遠隔地にはそれほど出荷されていない。

業態別にみた出荷量・金額の割合を図4に示した。出荷量で見ると、卸売市場 81.1%、仲買業者 14.6%、鮮魚商 3.9%、活魚料理店 0.4%、金額では卸売市場 89.1%、仲買業者 8.4%、鮮魚商 2.1%、活魚料理店 0.4%となっており、量、金額とも市場出荷が中心であり市場外出荷はそれほど多くはない。海区域別にみると市場出荷以外は豊前、筑前海区では仲買業者へ、有明海区は鮮魚商への出荷が比較的多い。

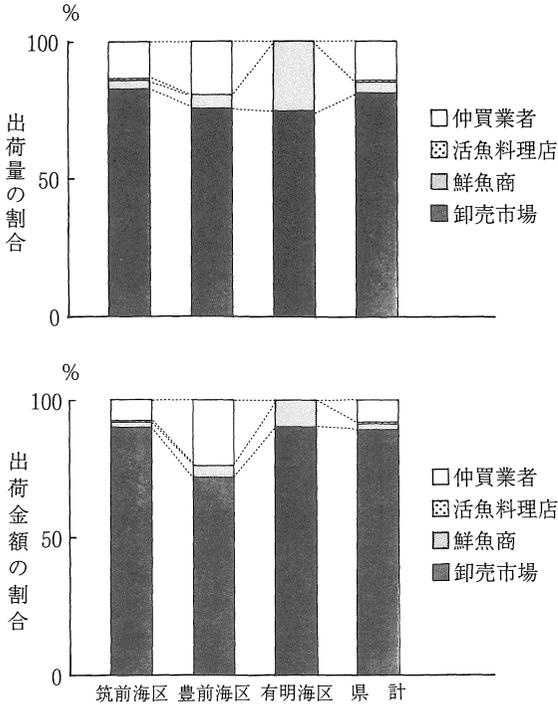


図4 業態別出荷量、金額の割合

2) 主要漁協の活魚出荷の事例

鐘崎漁協ではふぐ延縄で漁獲されるトラフグ、しいら漬で漁獲されるヒラマサ、延縄で漁獲されるアマダイ等約253トン(約13億8,000万円)、同漁協の生鮮魚貝類販売金額(以下漁協販売金額)に占める割合は33%、トラフグは下関市唐戸魚市場に出荷し、ヒラマサは北九州中央卸売市場を通じ鹿児島などの養殖業者に、延縄で漁獲されるアマダイは大阪中央卸売市場に出荷している。

玄界島漁協ではふぐ延縄で漁獲されるトラフグ、釣りで漁獲されるブリ、マダイ、底びき網で漁獲されるクルマエビ等を約236トン(4億7,000万円)、同漁協販売金額に占める割合は55%、トラフグを唐戸魚市場、ブリ等を福岡中央卸売市場へ出荷している。

姫島漁協ではさし網で漁獲されるヒラメ、コチ類、ハタ類等を約27トン(1億円)、同漁協販売金額に占める割合は57%福岡中央卸売市場、県漁連糸島魚市場、佐賀県唐津市の卸売市場等に出

荷している。

小呂島漁協では固定式さし網で漁獲されるヒラメを約23トン(1億1,000万円)、同漁協販売金額に占める割合は22%、福岡市内の活魚仲買業者に出荷している。

西浦漁協は2そうごち網で漁獲されるマダイ、ヒラメ等を約23トン(5,500万円)、同漁協販売金額に占める割合は7%福岡中央卸売市場や広島中央卸売市場へ出荷している。

伊崎漁協は底びき網で漁獲されたクルマエビを約8トン(6,500万円)、同漁協販売金額に占める割合は61%を神戸、大阪、東京の卸売市場へ出荷している。

姪浜、浜崎今津漁協は底びき網やさし網で漁獲されたクルマエビを福岡県漁連を通じて大分県の仲買業者へ出荷している。

宇島漁協は底びき網やます網で漁獲されたクルマエビ、ガザミ等を、県内や大分県中津市に隣接していることから、中津市の卸売市場や仲買業者へ出荷している。

3) 天然魚の活魚と鮮魚の価格比較

魚種別の活魚と鮮魚の価格を表4に示した。活魚の価格はアンケート調査の平均価格であり、鮮魚価格は福岡中央卸売市場での平均価格で代表した。活魚と鮮魚の価格比をみると、概ねガザミ、トラフグ、コチが3倍以上、ウマズラハギ、ケンサキイカ、アマダイ、ヒラメは2倍程度で、ヒラマサ、マダイ、ブリ、イサキ、カレイ類、ハタ類等は2倍以下であり、いずれも価格の高位性がみられる。また、活魚流通業者A社での取扱魚種の中で、天然魚のケンサキイカ、ウマズラハギの取扱価格と鮮魚価格について比較すると、それぞれ2.9、4.9倍となっており、ここでも活魚価格の高位性が認められる(表2)。

なお、養殖魚が活魚のほとんどを占めている魚種であるブリ、マダイではそれほど価格差がないが、天然魚が活魚の主体を占める魚種コチ、ウマズラハギ、アマダイなどは活魚と鮮魚の価格差が大きい傾向が認められる。なお、トラフグは養殖物も活魚として取り扱われるが、季節商材として

超高値を呼ぶため例外的に価格差が大きい。

表4 天然魚主要魚種別活魚、鮮魚価格比較（1990年）

魚種名	活魚価格 (円/kg)	鮮魚価格 (円/kg)	価格比
ヒラマサ	875	596	1.5
マダイ	2,063	1,616	1.3
ブリ	450	375	1.2
魚 ヒラメ	3,926	2,001	2.0
イサキ	910	776	1.2
カレイ類	1,200	820	1.5
トラフグ	13,885	3,376	4.1
類 ウマズラハギ	681	238	2.9
ハタ類	1,836	1,231	1.5
アマダイ	2,200	1,056	2.1
コチ	2,117	568	3.7
甲殻類 ガザミ類	2,890	417	6.9
類 クルマエビ	4,582	3,278	1.4
その他 ケンサキイカ	2,500	1,119	2.2
計 14種			

注1 活魚価格については漁協アンケート調査結果

注2 生鮮価格については福岡中央卸売市場価格

#### 4) 活魚出荷についての漁協の意識

漁協の活魚出荷に対する意識をアンケート調査結果に基づいて整理した。最近の活魚取扱量が「微増している」、「増えている」の回答は56%、「微減している」、「減っている」28%、「変わらない」が16%である。また、活魚消費の今後の動向についても「増加する」としているものが90%に達している。一方、問題点としては「活魚としての数量が揃わないことが最大のネックである」、「活魚は個人出荷されているので、漁協での一元的な取扱いが難しい」等を挙げている。今後の取り組みについては「縮小する」との意見はなく、「積極的に取り組む」としたものが77%であった。また、活魚出荷施設整備について自漁協の施設を「増やしたい」がもっとも多く、また「漁連を中心に活魚センターをつくってもらいたい」との回答が多い。以上の回答結果から魚価が低迷している現状の打開策として活魚出荷に強い期待を持っていることが判る。以上述べてきた本報告はアンケート調査を主体としているため、結

果はかなり粗いものとなっているが、本県漁業者の活魚出荷傾向を概観できたと考える。

## 考 察

近年の活魚需要の動向は、活魚消費の主体をなす家庭外消費の停滞、その社会経済的背景としての景気の動向を反映して、全体的には頭打ちとなっている。また、消費者の嗜好を反映して、魚種の多様化とくに天然魚の魚種の多様化傾向がみられ、馬場<sup>9)</sup>も築地市場で活魚魚種としては珍しい天然魚の新魚種であるアイナメ、コチ、オコゼの取扱いが伸びていることを指摘している。

一方、本県漁業者の活魚出荷は天然魚が主体であり、確認できたものでも27種に及び、沿岸漁業漁獲量に対する割合は10%程度、同金額では20%程度と見積られ、活魚出荷は量、金額ともに一定の地位を占めるようになってきている。さらに、漁協は高価格出荷対策として、活魚出荷を積極的に行いたいと考え、活魚出荷に期待をよせている。

しかし、今後検討の余地がある状況としては、トラフグ、ヒラメ等一部の魚種をのぞけば漁獲量に対して活魚出荷される量は少いこと。活魚出荷の仕向地別割合をみても、特別な出荷体制をそれほど必要としない自県及び九州山口圏内の比較的近距离への出荷が多く、また業態別にみても従来から出荷しており、少量の出荷でも不都合がない卸売市場への出荷が多いことなどがあると考えられる。また、これらは、漁協の意識調査からみて、活魚出荷施設整備の不備、活魚の数量が揃わないこと等に起因すると思われる。

そこで、今後の本県の漁業者の活魚出荷では、魚種の面からみれば、活魚魚種の多様化、特に天然魚種への嗜好の広がり、天然魚種の活魚価格が鮮魚価格に対し高位性を保っており、特に天然物が活魚の主体であるコチ、ケンサキイカ、ウマズラハギなどでは2倍以上である傾向がみられていることなどに着目した出荷対応を行う必要がある。

つまり養殖魚が活魚の主流を占めていない魚種

の出荷量を増やすことや現在取扱いがほとんどない新魚種の開拓が考えられる。

具体的に例をあげると筑前海区では本県での漁獲量は多いが活魚出荷量が少ないケンサキイカ、活魚取扱い数量は少ないながら伸びてきているウマズラハギ、また高価格のオコゼの活魚の出荷量を伸ばすことなど活魚出荷メリットの大きい魚種の活魚出荷増の検討、さらに福岡水産試験場<sup>7)</sup>が活魚出荷を対象とした短期蓄養魚種として「期待できる」「可能性ある(要検討)」とした34魚種中今回の調査で出荷状況が確認できなかったハモ類、カンダイ、コシヨウダイ等の養殖魚が出回っていない魚種の出荷の可能性、豊前海区ではクルマエビ、ガザミの活魚出荷量増、コチ等の活魚化、また、有明海区でもクルマエビ、ガザミの活魚出荷量増、ウシノシタ類等の活魚化などを検討してみる余地はあると考えられる。

出荷先については、仕向地として東京、大阪など高価格が見込める地域への出荷、また業態別には、より高価格が期待できる活魚料理屋等の卸売市場以外への販売等は検討の余地はあると考えられる。もちろんこの際には東京、大阪へ出荷するための数量の確保、輸送方法改善や、活魚料理店に出荷するための魚種揃えなど体制整備に付随するコスト増やリスク増とのバランスを十分に考慮する必要はあろう。

なお、活魚価格の高位性については、今回十分な資料を集められなかったため、今後の検討課題とする必要があると考える。

## 要 約

1) 福岡中央卸売市場における活魚取扱高は'75年から'89年まで経年的に伸びてきていたが、'90年には量・金額とも前年を下回っている。活魚流通の主流は養殖魚で85%を占め、魚はブリ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、マアジ、ヒラマサ、ハタ類、スズキ、イシダイなどがあり多様である。天然魚は15%程度でヒラメ、イシダイ、イシガキダイ、イサキ、アナゴ、ケンサキイカ、イセエビ、オコゼ、ウマズラハギ等多様化している。

2) 活魚出荷を行っている漁協は県全体で26漁協、活魚出荷魚種はマダイ、ブリ、ヒラメやトラフグを主とするフグ類等27種、活魚出荷量は約830トン、金額は約26億で沿岸漁業漁獲量に対しての割合は約6%、同漁獲金額でみると約21%という結果になったが、実際の活魚出荷量の沿岸漁業漁獲量に対しての割合は10%程度、同金額では20%程度と見積もられる。

3) 活魚の仕向地は県内、佐賀県・大分県・山口県・長崎県及び広島県、兵庫県、大阪府、東京都の9都府県に及ぶ、しかし九州山口圏内への出荷が量・金額とも90%程度を占める。出荷先を業態別にみると卸売市場、小売業(鮮魚商、活魚料理店)、仲買業者へ出荷されている。量、金額とも、卸売市場が80~90%を占める。

4) 活魚と鮮魚の価格比をみるとガザミ、トラフグ、コチが3倍以上、ウマズラハギ、ケンサキイカ、アマダイ、ヒラメは2倍程度で、マダイ、ブリ、イサキ、カレイ類、ハタ類等は2倍以下であるが、いずれも価格の高位性がみられ、また、活魚流通業者A社の取扱でもケンサキイカ、ウマズラハギについて活魚価格の高位性が確認される。

5) 漁協は、活魚消費は今後も「伸びる」と考え、「活魚の数量が揃わない」などの問題点を抱えながらも、今後も「積極的に取り組む」意向を持っている。また、活魚出荷施設を「増やしたい」、「漁連を中心に活魚センターをつくってもらいたい」との要望をもっており、魚価低迷の打開策として活魚出荷に強い期待を持っていることが判る。

## 文 献

- 1) 浜田 英嗣：活魚店を中心とした流通・経済分析。漁業経済研究，第29巻，第3号，1-20，(1984)
- 2) 福岡市農林水産局：漁獲物附加価値向上対策事業調査報告書，(1984)
- 3) 福岡市農林水産局：漁獲物附加価値向上対策事業調査報告書，(1985)
- 4) 楠本 勝英：まがりかどにきた活魚店経営(変貌するサービス業)，(財)九州経済調査

- 協会，福岡市中央区大名1丁目9番48号，1986
- 5) 楠本 勝英：福岡市における活魚市場の展開，養殖臨時増刊活魚販売，緑書房，東京都豊島区池袋2-14，1988，pp.109-114
- 6) (財)九州経済調査協会動向分析室：転換期迎えた九州活魚市場.九州経済調査月報，7月号，3-27，(1992)
- 7) 福岡県福岡水産試験場：玄海灘海域総合開発事業調査報告基礎調査編，福岡県福岡水産試験場，福岡県福岡市西区今津1141-1，1985，pp.123-132
- 8) 水産庁漁政部水産流通課・(社)漁業情報サービスセンター：平成2年度水産物需給動向等実態調査報告書(活魚の流通動向-II)，水産庁漁政部水産流通課・(社)漁業情報サービスセンター，東京都千代田区霞が関1-2-1，東京都台東池の端2丁目9番7号，1991，pp.113
- 9) 馬場 治：活魚マーケットの現状と将来展望，養殖臨時増刊養殖販売バイブル，緑書房，東京都豊島区池袋2-14，1992，pp.47-51